

音楽科シラバス (第2学年)

1 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指して

- ・歌唱曲の作詞者・作曲者、時代背景など要素の学習を通して、音楽の基礎基本を身に付けさせます。
- ・歌唱においては、楽譜（旋律）からの音とり活動を充実させ、読譜力を身につけさせます。
- ・鑑賞では、作曲した音楽家の時代や楽曲構成の理解、DVDの鑑賞により音楽的感性の感受と音楽的要素を取り入れた文章による表現を行います。

歌唱	とにかく声量のある美しい声で歌うことが一番大事なので、積極的に声を出すことを目指します。音楽の授業やいろいろな行事で歌うときには声量があれば高評価につながります。歌のテストでは声量・響き・美しさに一番の比重をおきます。
器楽	主にアルトリコーダーの個人練習が中心となります。一生懸命取り組ませます。楽器の演奏は努力しないと上達しませんので、時間いっぱい練習させます。
鑑賞	DVDやCD等の音楽を鑑賞して感じたこと感想記入や、教科書を使い鑑賞する曲の楽曲背景や音楽史などを勉強します。鑑賞の感想を書く場合は「凄かった」とか「良かった」の一言で感想を書いたり、述べたりではなく、音楽の諸要素を言葉で表現できるように、自分の言葉できちんと説明できるような学習をさせます。

2 思考力・判断力・表現力その他の能力の育成を目指して

- ・こころから音楽を楽しむ授業（わくわく・どきどき・いきいき）を展開するとともに、特に鑑賞では書くことで思考力を高めさせます。
- ・音楽科では、生徒の発達段階や題材の特質に応じて、信頼性・客観性のある絶対評価の充実を図り、指導と評価の一体化された活動を展開することで表現力やその他の技能の向上を図ります。

3 学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指して

- ・学習内容に関する興味・関心を把握し、題材における導入や展開の工夫（デジタル教科書の使用）、生徒の実態に合わせた学習の展開をします。
- ・授業六束から、正しい服装を整え、聴くときは聴く、歌うときは正しい姿勢で歌わせ、積極的に歌唱やリコーダーを練習し、表現できるようにします。

4 持ち物

授業の時には「音楽の教科書」「器楽の教科書」「コーラスフェスティバル」「リコーダー」「筆記用具」を持って来て下さい。尚、これらは音楽用のバッグにまとめて入れ、ロッカー等に置いたままで構いません。忘れ物をした場合は減点となりますので注意してください。また、各学期末には音楽の筆記試験、実技試験もあるので試験前には持ち帰って勉強して下さい。

5 実技及び定期テストについて

歌唱	声量・美しさ、音程、音楽の表情、姿勢・口のあけ方等を見ます。声量・美しさに一番の比重をおきます。但しテストの時だけ大きな声を出しても高得点にはなりません。日々の取り組みが大切です。
器楽	美しい音色でなめらかに演奏できているか、タンギングはきちんとできているか、曲の終わりまでで演奏できたか、指使いは正しいか、姿勢などをみます。
鑑賞	鑑賞の授業後の感想用紙及び各学期の期末試験で勉強した知識の確認を行います。

6 評価の観点と評価規準

① 主体的に学習に取り組む態度

授業への積極的な取り組みや授業態度を中心に評価します。歌唱や器楽は得意・不得意に関係なく大きく美しい声で歌い自分の力で音楽を表現することが大切です。自ら進んで練習に取り組む楽曲に向き合うことも必要になります。

ただ授業に参加しているだけで声や演奏の音が聞こえない人、練習を怠る人、私語の多い人、忘れ物の多い人は、主体的に学習に取り組む態度がないものと判断します。生徒手帳及び本校生活のきまりに準じた服装で授業に臨むこととします。

儀式に関わる科目でもありますので服装や作法の育成も必要となります。服装が乱れている場合、主体的に学習に取り組む態度がないものと判断します。

授業に参加するにあたって何も持ってこなかったり、教科書やリコーダー等の忘れが多かったりする人は、主体的に学習に取り組む態度がないものと判断し、評価をCとします。

【主な内容】授業態度、提出物の状況、忘れ物の有無、積極的に歌い演奏しているか等。

その他① 実技や鑑賞の試験が良い成績であっても、授業妨害（他の生徒への迷惑行為及び学習権の侵害など）があり、指導をしても改善がない場合は、評価をCとし評定を1とすることもあります。

その他② 授業態度、実技試験や筆記試験の結果によっては授業出席日数が十分であっても評定は1や2となります。

② 思考・判断・表現

歌唱（合唱・斉唱・独唱）、器楽演奏の実技試験を行い、その結果で評価します。

実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価が出来ない為評価はCとします。

【主な内容】強弱や歌詞など楽曲に応じた表現ができているか。曲趣に応じた音楽的身体表現。

③ 知識・技能

その時に勉強している楽曲に関係する知識が必要であると考えます。各学期末に行う定期試験の結果を中心に評価します。また、鑑賞の授業中に居眠り、私語の多い人は筆記試験の点数が規準に達していても、音楽を鑑賞する気がないものと判断し評価をCとします。

歌唱（合唱・斉唱・独唱）、器楽演奏（合奏・独奏）の実技試験を行い、その結果で評価します。実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価ができないため評価はCとします。

【主な内容】期末試験の得点、鑑賞の取り組み状況など。

正しい音程で歌えているか、リコーダーは正しい指使いができているか、

タンギングができているか。姿勢など。

7 評定の主な例

【観点別学習状況の評価】

十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの：A○

十分満足できると判断されるもの：A

おおむね満足できると判断されるもの：B

努力を要すると判断されるもの：C○

一層努力を要すると判断されるもの：C

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}○=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}○=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
^{マル} A○ ^{マル} A○ ^{マル} A○	15点	^{マル} A○ ^{マル} A○ A	14点			5
^{マル} A○ A A	13点	A A A	12点	^{マル} A○ B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B ^{マル} C○	8点	3
B ^{マル} C○ ^{マル} C○	7点	^{マル} C○ ^{マル} C○ ^{マル} C○	6点	^{マル} C○ ^{マル} C○ C	5点	2
^{マル} C○ C C	4点	C C C	3点			1

8 学習計画

	題材	教材	主な到達目標
1 学期	合唱する喜びを味わう	「校歌」 「翼をください」	校歌を通して大石中学校生徒としての自覚を持たせ、音楽を愛好する心情と歌う意欲を育てる。
	パイプオルガンの響き	「フーガ ト短調」	パイプオルガンの響きに親しみ、旋律と旋律が絡み合う面白さを味わうことができる。
	日本の情景を歌い上げよう	「夏の思い出」 「花の街」	旋律の抑揚を生かし、伴奏の響きを感じ取りながら尾瀬の美しさを表現することができる。楽譜や歌詞から様々なことを読み取り、表情を深めることができる。
	曲想を感じて器楽演奏しよう	アルトリコーダー奏法基礎	アルトリコーダーの基礎・基本を習得し、器楽演奏する。
	混声合唱の響き	「合唱コンクールクラス自由曲の選曲・決定」	合唱コンクールへの取り組みを通して、様々な合唱曲を聴くことで表現力と音楽を愛好する心情を育てる。
2 学期	詩と旋律合唱の響き	「学年合唱曲」 「クラス合唱曲」	声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱する能力を育てる。合唱コンクールへの参加を通して、色々な合唱曲に取り組み表現力と合唱を愛好する心情を育てる。
	曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わう	交響曲第5番ハ短調	曲想と音楽の関わりについて理解し、オーケストラの豊かな響きを感じ取りながら味わうことができる。
3 学期	オペラに親しもう	「アイダ」	オペラの総合芸術としての要素やオペラが上演されるまでの理解とアイダの壮大な音楽を親しむことができる。
	卒業式に向けて	卒業式歌 「旅立ちの日に」	2学年として最後の合唱に取り組むに当たり、発声・曲想共にまとめとなる合唱を作り上げる。

生徒一人一人にも、最初の授業にほぼ同内容のガイダンスを行っております。